

我が家と私の生涯の宝物

koberyo1

私の両親は、昭和四年に仕事をもとめて青森の弘前から上京した。当時は東北本線をつかい、青森と東京間が10時間もかかった時代である。私が二歳のときだ。貧乏だったから、わたしたちは東京で長いこと借家住まいを強いられた。その後、渋谷区の木村に暮らし、のちに本町に移住することになる。当時は昭和のはじめの時代、東北では生活苦のあげく、娘を遊郭に売り飛ばした悲惨な時代である。日本全体が貧しかった。

昭和六年ころまで昭和の大不況がつづき、両親は大変な苦勞をしながら私を育ててくれた。二歳年下の弟、清智（セイチ）がいたが、消化不良を起こし、六歳で短い生涯を閉じた。悲しい日々もあったが、その後、三男の健蔵（ケンゾウ）が誕生した。

父はようやく昭和十五年ごろ、家を建てた。平屋だが、8帖、6帖、それから2.5帖、玄関、台所、廊下などがあり、床の間、便所とつづき、父は小さいながらも一国一城のあるじとなった。それは私たちに与えられた、ささやかな幸福にして、贅沢な間取りだったと思う。

環境は繁華街で、にぎやかだった。家のあった路地を抜けると、すぐ大衆演劇のかかる演芸場が眼に飛び込んできた。

毎日、夕暮れの時刻ともなれば、客寄せの太鼓が響いた。演舞場の前には幟（ノボリ）旗がはためいた。家の間近で通学路だったから、時代劇のチョンマゲや、女舞子のあでやかな大きな看板をいやおうなしに見上げて歩いた。

北側には、この土地の氏神様、氷川神社があり、境内は子供たちにとって、この上もない遊び場であった。

神社では例祭があった。笛や太鼓に鉦の音など、お神楽はにぎにぎしく、ヒョットコの舞は珍芸であった。いまは神社などで躍り込む人などいないだろう。昔はヒョットコなどという珍妙な芸があったのだ。このような日本の庶民の文化が消えてしまうのは淋しいかぎりだ。

かつての我が家の周辺環境については、このぐらいにしておこう。

次には昭和初期の学校について書いてみたい。

母校は「本町小学校」といった。自宅から本町小学校までは歩いて10分ほどの距離である。学

校の横に文具を取り扱う店があり、西側には「木村屋」というパン屋があった。

教室からは「春の小川」をうたう子供たちの歌声が流れ、戦争が始まる嵐の前の静けさというか、このころは平和で楽しいムード一色だった。

晴天の日は朝礼の行事として拡声器でレコードの国歌をかけ、国旗を掲揚した。国歌を「君が代」、国旗を「日の丸」といった。

さまざまな意見があることを承知はしているが、——そしていろいろな意見があってもよいとは思うのだが、私は、君が代の斉唱や、国旗の掲揚は、日本人として当たり前「けじめ」であると今でも信じている。

話を我が家のことに戻そう。

床の間には、とある書家が書いた掛け軸がかかっていた。父が月賦で買ったという掛け軸である。いまでは名前が残っていない書家の手になるものだ。

それを父が私に贈ってくれた。嬉しかった。いまもその懐かしい掛け軸は私の手元にあり、私を守ってくれていると感じる。

掛け軸には何が書いてあるのか？ 明治天皇が明治23年10月30日（1890年）に発布された「教育勅語（きょういくちよくご）」が写してあったのである。

父はこの「教育勅語」の掛け軸を私の贈ってくれたとき、いま思い起こせばこう言った。

「ここに書かれている内容を一生の教訓として働き、生計を立て、生きて行きなさい」

と。

いまなおこの言葉は頭の中に残っている。

「教育勅語」は、全部が漢文である。もともと明治天皇がお書きになられた原文もまた漢文なので、子どもだった私には何を書いてあるのか、サッパリ理解できなかった。その内容は長ずる

につれわかってきたのだが、明治天皇が国民に道徳の根本をお示しになったものであり、現在、若い人たちの中には、「教育勅語」の存在すら知らずに育った人が多いのではないだろうか。

これを小学校では暗唱させられたのである。

内容は理解できなかったが、先生の解説のお蔭もあって、しだいにわかってくるようになった。教育勅語は、道徳項目が主に12個あることから「12徳」とも呼ばれる。私は今、八十八歳だが、この年になっても読み返し、暗唱すれば、父が私の生涯を考え、「生きる教訓」として残してくれたことの意味が胸に迫ってくる。

父には本当に有難いことだと思っている。感謝しても身に余る。「教育勅語」自体は漢文で一見、とっつきにくそうだが、その教えは平易でありながら奥深い。この掛け軸は我が家の宝物として子々孫々に伝えてゆきたいと思っているのです。

以下に「教育勅語」の「12徳」の現代語訳を掲げる。

1. 孝養：子は親に孝養を尽くしましょう
2. 友愛：兄弟、姉妹、仲良くしましょう
3. 夫婦の和：夫婦はいつも仲睦まじくしましょう
4. 朋友の信：友達はお互いに信じあってつきあいましょう
5. 謙遜：自分の行動を慎みましょう
6. 博愛：広くすべての人に愛の手をさしのべましょう
7. 修業就業：勉学に励み、職業を身につけましょう
8. 智能啓発：知徳を養い、才能を伸ばしましょう
9. 徳器成就：人格の向上に努めましょう
10. 公益世務：広く世の人々や社会のためになる仕事に励みましょう
11. 遵法秩序：法律や規則を守り、社会の秩序にしたがいましょう
12. 義勇：正しい勇気をもって国のために真心を尽くしましょう

明治神宮謹製「教育勅語」の「12徳」を参考にし、引用しました。

